

天井近くの窓から届く陽光に照らされ、柱や梁（はり）、床材として使用されたヒノキやカラマツの木目が映える。7月末、屋代高校の敷地内に付属中の開校から4カ月遅れて木造2階建ての「中学生棟」が完成した。「木の香りがして、いい雰囲気」。夏休みを終えた1年生80人は、これまで使っていた高校の校舎から、県産材に囲まれた開放的な「マイ校舎」に移り、新たな気持ちで学校生活をスタートした。



新校舎の昇降口

<6>

木造2階建て中学生棟完成

夏休み明け勉強集中

中学生棟は敷地内の北側に建設し、延べ床面積は1825平方メートル。専用の昇降口、職員室、1年生～3年生の普通教室、学年集会

は屋代高校の施設を利

原則として木造とする

低層の公共建築物を

県の方針に基づき、土台や柱はヒノキ、梁や床はカラマツというように、使用木材の大半は県産材で賄った。

敷地面積を節約するため、廊下を挟んだ両側に教室やトイレなどを配置し、片側廊下が一般的な学校としては珍しい造り。このため

明かり取りや風通しを考慮し、2階廊下の天井近くの壁に窓を設けたほか、昇降口部分を吹き抜けにしてある。

1年B組の唐木田翔君は「やっと自分たちの教室ができた。これで勉強に集中できそう」。同じクラスの辻美希さんは「一期生として、学校に何かを残せるよう勉強や班活を頑張りたい」と力を込める。

を開ける大きさの講義室などを備える。特別教室は、中学校の専門教科の技術教室があるだけで、理科室や美術室、音楽室など



1学年80人が一度に利用できる講義室

木造2階建ての「中学生棟」。2階の廊下は天井近くの窓から陽光を取り入れている。